乳児を対象にした研究活動

人間心理学科　山　本　絵里子

新型コロナ感染症は、これまでの大学の授業形態だけではなく、研究活動にも大きな影響をもたらした。これまで、私は主に実験室実験の手法を用いて、縦断的な発達研究に取り組んできた。実験室実験では、様々な条件が統制された実験室内で、ある刺激に対する乳幼児の反応を行動や脳活動レベルで計測する。しかし、2020年４月７日の緊急事態宣言を機に「オンライン実験」は、実験室実験と同様に身近なものとなった。そして、オンライン実験の１つに、遠隔会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔実験が挙げられる。本稿では、2021年度から取り組んでいるオンライン実験を用いた縦断的な発達研究について報告する。

私は、これまで舞踊に関する縦断的な発達研究に従事してきた。「舞踊」とはなにかと考えたとき、多くの人は人が音楽にのって身体を動かしている場面を思い浮かべるのではないだろうか？しかし、その想像した場面から音楽を消しても、私たちはそこに舞踊と呼ばれる身体の動きをみる。すなわち、舞踊とは、「動きのリズムパターンと空間を形成する身体の動き（邦, 1973）」と定義づけることができる。

このような舞踊の原初的形態は発達初期にみられる。ヒトの乳児は、生後12か月ごろになると、養育者とのやりとりの中でリズミカルな身体の動きを表出し、養育者はこれを舞踊と理解する。そして、乳児期における舞踊の発達は言語発達や他者理解の発達といったその他の認知発達と関連していることが報告されている（山本・開, 2021）。では、この乳児時期の舞踊はどのように発達するのだろうか？そして、その行動の個人差を生み出す要因は何か？近年、数多くのダンスや体操が放送・配信されている。また、発達心理学的研究では、子どもたちがテレビというメディアを通して様々な動きを学習していることが報告されている（e.g. Barr and Hayne., 1999;

Nishimura, 2006; Yamamoto et al., 2019)。そこで、本年度は、乳児期のリズミカルな身体の動きの発達的変化、及び、メディア接触経験が舞踊の発達の個人差に果たす役割を検討した。

本研究では、乳児のリズミカルな身体の動きの発達的変化をとらえるためにオンライン実験と実験室実験を用いて縦断研究を実施するとともに、彼らの日常的なテレビ視聴行動の記録を収集した。オンライン実験に参加した乳児は、遠隔会議システムを通して、日常的に視聴しているテレビコンテンツ内の音楽が呈示された。実験室実験に参加した乳児は、様々な条件が統制された実験室内で、オンライン実験と同様の音楽が呈示された。そして、姿勢推定技術を用いて、オンライン実験と実験室実験で計測した音楽に対する乳児の身体の動き、及び、日常的なテレビ視聴中の身体の動きを分析した。両実験の結果、生後10か月ごろから生後12か月にかけて、リズミカルな身体の動きのバリエーションが増加することが確認された。今後、これらのリズミカルな身体の動きの発達と彼らの日常的なテレビ視聴行動との関連を検討する。

本研究活動は、私にオンライン実験遂行の難しさとともに、オンライン実験による縦断的な発達研究の可能性を示してくれた。今後も、新たな実験手法を模索しながら、乳児の行動の発達的変化を科学的視点から捉えていきたいと思う。

参考文献

Barr, R., & Hayne, H. (1999). Developmental changes in imitation from television during infancy, *Child Development*, 70(5), 1067-1081.

西村規子 (2006). 乳児はテレビにどのように接しているか －０, １, ２歳のメディア接触実態の変遷－, *放送研究と調査*, 56, 66-77.

山本絵里子・開一夫 (2021). ダンスの初期発達, *体育の科学*, 71(4), 237-240.

Yamamoto, E., Matsuda, G., Nagata, K., Dan, N., & Hiraki, K. (2019). Subtle temporal delays of mothers' responses affect imitation learning in children: Mother-child interaction study, *Journal Experimental Psychology*, 179, 126-142.